

11:1 【主】に私は身を避ける。どうして、あなたたちは私のたましいに言うのか。「鳥のように、おまえたちの山に飛んで行け。

11:2 それ、見よ。悪者どもが弓を張り、弦に矢をつがえ、暗やみで心の直ぐな人を射ぬこうとしている。

11:3 抛り所がこわされたら正しい者に何ができようか。」

11:4 【主】は、その聖座が宮にあり、【主】は、その王座が天にある。その目は見通し、そのまぶたは、人の子らを調べる。

11:5 【主】は正しい者と悪者を調べる。そのみこころは、暴虐を好む者を憎む。

11:6 主は、悪者の上に網を張る。火と硫黄。燃える風が彼らの杯への分け前となろう。

11:7 【主】は正しく、正義を愛される。直ぐな人は、御顔を仰ぎ見る。

はじめに

この詩篇の歴史的背景はなかなかはっきりしません。

ダビデは、彼の命を狙っていたサウル王から隠れて 10 年間も逃亡生活を送り、しばしば危険にさらされました。また、息子アブシャロムの謀反によって追われる身にもなりました。

しかし、ダビデは自らが記した危機的状況に置かれながらも、逃げずに神を信頼して勇敢でありつづけました。

ダビデは、神によって送られた人生の試練を乗り越えたのです。

私たちはどんな状況に見舞われるかわかりませんが、その中で二者択一しなければならないことを、この詩篇は教えてくれます。

1. 選択その一：恐れる。これは、目に見えるところによる歩みです。
2. 選択その二：神を信頼する。これは、信仰による歩みです。

この詩篇から、ダビデは信仰によって歩んだことが明らかです。

では、ダビデが危機的状況で恐れずに神を信頼することを選んだとき、どんな試練に遭ったのか見ていきましょう。

1. ダビデの神への信仰が攻撃された。(1-3 節)

ダビデは、人の発言をとおして、信仰に対する攻撃を受けました。

誰がそのようなことを言ったのかは、記されていません。

友人かもしれませんし、敵かもしれません。

ただわかっているのは、私たちの信仰の本当の敵はサタンであるということです。

神に対する信仰を攻撃するのはサタンです。

友人であっても、知らずにサタンの手先として利用されてしまうことがあります。

私たち自身の思考の中からも、人から言われたことから、攻撃される可能性があります。

ではここで、ダビデの信仰が 1-3 節でどのように攻撃されたか見ていきましょう。

a) 落胆というかたちで攻撃された。(1 節)

ダビデは、誰かから逃げようと言われてました。

この個所には、問題から逃れるために、おびえた鳥のように山に飛んで行け、という比喻があります。

神を信頼して信仰によって歩みたいと思うなら、問題から逃げることをクリスチャン人生の選択肢にするべきではありません。

落胆させることは、サタンの武器のひとつです。

一方、この後に読むエペソ 6 : 13-17 を見ると、私たちの背中に着ける神の武具はありません。

神は、神の子たちが敵に背を見せて戦いから退くことを望まれません。
では、エペソ 6 : 13-17 を読みましょう。

エペソ 6 : 13-17

6:13 ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。**6:14** では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、**6:15** 足には平和の福音の備えをはきなさい。**6:16** これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。**6:17** 救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。

サタンに攻撃されたとき、とくに落胆という手段をとおして攻撃されたときに必要となる霊の武具を手短に説明しましょう。

真理の帯—最初に着けるべき霊の武具が真理であることに注目しましょう。
悪魔は偽り者であり、偽りの父です。

ヨハネ 8 : 44

8:44 あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。

サタンが真理を語ることはありません。
ですから、サタンの力を破るには、いかなる場合でも神のみことばの真理とそれが何と語っているかを知っておく必要があります。

ヨハネ 8 : 31-32

8:31 そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。**8:32** そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

サタンは、なによりもキリストにある私たちのアイデンティティーを攻撃するでしょう。

キリストにあるアイデンティティーとは、クリスチャンとしての私たちの身元です。
ですから、私たちについて聖書が何と語っているかを読んで知る必要があります。サタンの言い分に耳を傾けてはいけません。

キリストにある自分の立場をどう理解するかが、私たちクリスチャンの行動を左右します。

私たちクリスチャンは、「世の光」であることを、皆さんはご存知でしたか。
マタイ 5 : 14 を読みましょう。

マタイ 5 : 14

5:14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。

次に、ヨハネ 8 : 12 を読みましょう。

ヨハネ 8 : 12

8:12 イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」

ですから、クリスチャンが暗闇の中を落胆しつつ歩む必要はありません。私たち自身が「世の光」だからです。そして、私たちが現代社会の人々にとっての唯一の希望なのです。

私たちには救いのメッセージがあります。

興味を持ってくれる人を、私たちはイエス・キリストによる永遠のいのちへと導くことができます。

なんとすばらしいことでしょう。

ここでは、キリストにあるアイデンティティーのひとつの側面だけに焦点を当てました。落胆した時にじっくり読んで黙想できる励ましのみことばが少なくとも他に 20 箇所はあります。そのリストはこのメッセージの最後に添付してあります。

正義の胸当て (エペソ 6 : 14) —ローマ兵の武具で、胸当ては人体の主要な臓器を覆うものでした。特に心臓部分です。心臓は、私たちの感情を司る場所です。この武具をつけていなければ、敵から矢が放たれたり剣を振りかざされたりすると、即座に死んでしまいます。

私たちの命を守る正義は、イエス・キリストから与えられます。

イエスを信じると、イエスがご自身の義を与えてくださいます。

コリント第二 5 : 21

5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方であって、神の義となるためです。

ですから、サタンから義のうちに守られるためには、私たちは罪を告白し、イエスの血によって覆っていただく必要があります。

告白していない罪があれば、サタンはそこに付け込めます。

サタンはクリスチャンを責めたてる者です。

けれども、罪をすべて神に告白していれば、イエスによって私たちは赦され、守られた状態を保てます。

足には平和の福音の備えをはきなさい。(エペソ 6 : 15) —ローマ兵にとって、履物は非常に重要でした。

ローマ兵の履物は三層の皮でできていて、足にぴったりフィットするようにひもがついています。

たいていの場合、靴底にスパイクのような釘がついていて、すべりやすい地面でも歩きやすいようになっています。

ローマ兵はどこへでも歩いて行きました。ですから、履物は戦ううえで大切な基礎でした。

福音のメッセージも、私たちの信仰の基礎でなければなりません。

サタンは常に、信仰の核心から私たちの気を削ぎ、妥協させ、信仰を損なおうとしています。

ですから、私たちは「福音」をしっかり理解しておく必要があります。

他の聖書の真理もちろん大切ですが、「福音」が一番大切です。

これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。(エペソ 6 : 16)

この霊の武具はとても単純です。

神のみことばが私たちについて語ることを信じましょう。人の発言や心のささやきをとおしてサタンが言うことを信じてはいけません。

私たちが信仰によって信じる時、それは盲信ではありません。私たちの信仰は、聖書に記された事実に基づくものです。

救いのかぶと (エペソ 6 : 17)

ローマ兵のかぶとは、兵士の頭を守ります。私たちの思考も守りが必要です。すべては私たちの思考をとおるからです。

私たちの思考パターンがサタンに動かされると、後々、私たちの行動まで動かすようになります。

私たちの思考は守られなければなりません。思いを守れば、クリスチャンとしてのよりよい行いにつながります。

パウロはコリント第二 10 : 5 で、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させなさいと教えます。

つまり、私たちの思考パターンがサタンの忍び込む入口になり得るということです。サタンが私たちの思いを動かせるようになれば、私たちが間違ったことをし始めるのに長くはかからないでしょう。

サタンに欺かれるほどクリスチャンにとって残念なことはありません。

御霊の与える剣である、神のことば (エペソ 6 : 17)

サタンから自らを守るために神のみことばを使えるということです。イエスもこの方法を用いました。

マタイ 4 章で、イエスはサタンに 3 度誘惑を受けられましたが、そのたびに、神のみことばを用いてご自身を守られました。

神のみことばは、サタンに対抗する偉大な守りです。ですから、必要に応じて用い、引用しましょう。

b) ダビデは、脅しというかたちで攻撃された。(2 節)

サタンは私たちを落胆させられないと、吠えるライオンのように私たちを脅します。サタンは針を持たないハチのようなものです。ブンブンうるさくできても、イエス・キリストにしっかりと立つ神の民を倒すことはできません。

2 節に登場する悪者どもとは、神を信じない不信心な人たちを指します。

ダビデは、誰かに暴力によって脅されていたようです。

彼は恐れましたが、逃げませんでした。

c) ダビデは、基本的真理をないものにしようとするかたちで攻撃された。(3 節)

ダビデは神に選ばれた王でした。サウルは神に退けられ、アブシャロムは自ら王になろうとしただけで、神に選ばれてはいませんでした。

ダビデが選ばれた立場から逃げてしまったら、神のみこころに従ってダビデを支えていた正しい人たちはどうなるでしょう。

確実に落胆するでしょう。

だからこそ、聖書の真理は代々受け継がなければならないのです。

テモテ第二 2 : 1-2

2:1 そこで、わが子よ。キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。

2:2 多くの証人の前で私から聞いたことを、他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい。

残念ながら現在、イエスを信じていると言いながらクリスチャン信仰の土台から遠ざかっている人が多くいます。

聖書の基本的真理を次の世代に確実に継承することは、私たち信徒の務めです。

2. 神を信じるダビデの信仰は、試されたことで揺るぎないものとなった。(4-5 節)

4-5 節は、神の目がご自身の民に注がれ、正しい人を試すと語ります。

4 節で「調べる」と訳されたこの単語は、金属を火で精錬するという意味を含みます。

エレミヤ 17 : 10

17:10 わたし、【主】が心を探り、思いを調べ、それぞれその生き方により、行いの結ぶ実によって報いる。

神が正しい人を試すのは、その人の中にある最善を引き出すためです。サタンが正しい人を試すのは、その人の中の一番醜い部分を引き出すためです。

私たちが苦境で主を信じるなら、与えられた試練は私たちの不利ではなく益となるために働きます。

コリント第二 4 : 7-18

4:7 私たちは、この宝を、土の器の中に入れているのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。 4:8 私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれていますが、行きづまることはありません。 4:9 迫害されていますが、見捨てられることはありません。倒されませんが、滅びません。 4:10 いつでもイエスの死をこの身に帯びていますが、それは、イエスのいのちが私たちの身において明らかに示されるためです。 4:11 私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されていますが、それは、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において明らかに示されるためなのです。 4:12 こうして、死は私たちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働くのです。 4:13 「私は信じた。それゆえに語った」と書いてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っている私たちも、信じているゆえに語るのです。 4:14 それは、主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、あなたがたといっしょに御前に立たせてくださることを知っているからです。 4:15 すべてのことはあなたがたのためであり、それは、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現れるようになるためです。 4:16 ですから、私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。 4:17 今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。 4:18 私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。

ノアは、洪水から家族を守るために箱舟を作るよう神から命じられたとき、神に試されました。

当時、地上に雨が降ったことがなかったので、人々はノアをあざけりました。けれども、ノアは神を信じました。

アブラハムは、ひとり息子のイサクをささげるように神に命じられ、試されました。

アブラハムは、従順な心かどうかを試され、合格し、結果的に息子をささげなくてよくなりました。それは神がアブラハムを試されるためのものだったからです。

私たちはどうでしょう。

神は私たちをどのように試されましたか。

私たちはどう対応しましたか。

逃げたのでしょうか。それとも、神を信頼したのでしょうか。

皆さんが試練の中で神を信頼したことを願います。もしそうできたら、神によって信仰が強められたはずです。

試練を決して否定的にとらえないでください。

神は私たちを愛してくださり、私たちの経験によって揺るぎない信徒へと成長させたいと望んでくださいます。

神に試されたときはたいてい、私たちを何らかのかたちで用いる神のご計画があるからです。

20年近く前、私がロンドンで奉仕していた教会の近くの教会の牧師が、突然奥さんを亡くされました。

奥さんはある日、頭痛がすると言いましたが、病院に入院することになり、一週間後には亡くなっていました。

その牧師は 40 歳くらいで、小さな子供もいました。

私が一度訪ねると、彼は言いました。

「アリスティア先生、これは神からの試練だと思います。私はこれまで神に仕えてきて、神から本当の意味で試されたことはなかったと思います。」

この牧師は後に再婚して、もうひとり娘さんが生まれました。

彼にとってこれはとてもつらい試練でしたが、乗り越えることができました。彼は、他の教会に移りましたが、牧師としての奉仕を続けました。

3. ダビデは、悪者を神が裁かれると信じていた。(5-6 節)

5 節には、神が暴虐を好む者を憎むとあります。

6 節には、神が悪者に火と硫黄と燃える風を送られるとあります。

ダビデが神の裁きについて語ったのは厳しすぎると思うかもしれませんが。神の裁き自体が厳しすぎると感じる人もいるかもしれません。

けれども、悪者の暴虐を受けた経験があれば、そうは思わないでしょう。

神の民に対する暴虐は、神ご自身に対する攻撃です。

神は、ご自身の民を守り、神の民に暴虐を働く者に裁きをくだされます。

現在、世界各地でクリスチャンが迫害を受けています。教会は取り壊され、クリスチャンの家は燃やされています。

暴徒がこのようなことをしていますが、いつの日か、その行いは裁かれます。

ダビデは、神の裁きとその時について神を信じていました。

私たちも、神のときに悪者が裁かれると信じる必要があります。

キリストにあるアイデンティティ

(原案ニール・アンダーソン)

私は受け入れられている

ヨハネ 1 : 12	私は神の子である。
ヨハネ 15 : 15	弟子である私は、イエス・キリストの友である。
ローマ 5 : 1	私は義と認められている。(義と宣言されている。)
コリント第一 6 : 17	私は、主とひとつにされた。私は主と霊においてひとつである。
コリント第一 6 : 19-20	私は代価を払って買い取られ、神のものである。
コリント第一 12 : 27	私は、キリストのからだの一部である。
エペソ 1 : 3-8	私は、神に選ばれ、神の子とされた。
コロサイ 1 : 13-14	私は、すべての罪を贖われ、赦された。
コロサイ 2 : 9-10	私は、キリストにあって完全である。
ヘブル 4 : 14-16	私は、イエス・キリストをとおして恵みの御座に直接近づける。

私は安全である

ローマ 8 : 1-2	私は罪の定めから解放されている。
ローマ 8 : 28	私は、すべてにおいて神が私のために働かれると確信できる。
ローマ 8 : 31-39	私は、私を責めるどんなものからも解放されており、神の愛から私は引き離されない。
コリント第二 1 : 21-22	私は、神によって堅く立ち、油注がれ、保証をいただいている。
コロサイ 3 : 1-4	私は、キリストとともに神のうちに隠されている。
ピリピ 1 : 6	私は、私のうちに神が始められた善い業を神が完成されると確信している。
ピリピ 3 : 20	私は天の国民である。
テモテ第二 1 : 7	私は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊を与えられた。
ヨハネ第一 5 : 18	私は神によって生まれ、悪い者は私に触れることができない。

私は大切である

ヨハネ 15 : 5	私は、まことのぶどうの木イエス・キリストの枝であり、イエスのいのちを運ぶ管である。
ヨハネ 15 : 16	私は、実を結ぶように選ばれた。
コリント第一 3 : 16	私は、神の神殿である。
コリント第二 5 : 17-21	私は、神の和解の務めを果たす者である。
エペソ 2 : 6	私は、イエス・キリストとともに天のところにすわらせていただいている。
エペソ 2 : 10	私は神の作品である。
エペソ 3 : 12	私は、大胆に確信をもって神に近づくことができる。
ピリピ 4 : 13	私は、私を強くしてくださるキリストによって、どんなことでもできる。